

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都大田区
園名	クオリスキッズいけがみ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

和の遊び 百人一首と将棋

<テーマの設定理由>

2023年度1月頃より、当時4歳児だった子どもたちで、どうぶつ将棋と百人一首を楽しむ姿があった。自由遊びの時間だが、遊びはどんどん広がり、どうぶつ容疑大会が開かれるほどだった。百人一首への関心も深まり、かるた取りだけではなく、塗り絵、暗唱などで子どもたち同士で遊びが深まった。そのため、子どもの遊びの深まりに合わせて、将棋、百人一首共に遊具の難易度をあげ、講師を招くなどを行った。

2. 活動スケジュール

6月 保護者保育参加（百人一首指導）
7月 夏祭りで将棋、百人一首の装飾
8月 5色百人一首、ポケット将棋購入
11月 女子将棋プロ棋士打ち合わせ
ハート将棋、初めての将棋、将棋と百人一首の本購入
保護者保育参加（百人一首指導）
12月 劇「百人一首物語」
1月2月3月 女子将棋プロ棋士将棋講座 百人一首有段者による講座開催

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

どうぶつ将棋、スタディ将棋、本格将棋、ハート将棋、初めての将棋購入
はじめての百人一首、みんなの百人一首、五色百人一首、決まり字かるた、
えあわせ百人一首
本 将棋教室、ドラえもんの百人一首で楽しもう、まんが百人一首大辞典
百人一首サブレ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

6月 保護者保育参加（百人一首指導）
ちらしどりから源平合戦への展開
7月 夏祭りで将棋、百人一首の装飾
8月 5色百人一首、ポケット将棋購入
絵札から文字札への展開
11月 女子将棋プロ棋士打ち合わせ
ハート将棋、初めての将棋、本格将棋、将棋と百人一首の本購入
より多くの子どもたちへ関心が広がった。本の購入により、作戦を考えるようになる。
保護者保育参加（百人一首指導）
12月 書道講師による書道体験
和歌を書いている子がいたため、名前の指導と共に、書きたい子どもは和歌を書く体験
をした。
フェスティバルで劇「百人一首物語」発表、親子将棋・百人一首体験、将棋教室
自分で選んだ歌人を着物風の衣装を着て、自分で選んだ歌人を演じる。
1月2月3月 女子将棋プロ棋士将棋講座 百人一首有段者による講座開催
英会話講師（アメリカ人）との将棋対戦

〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

友だちの姿に影響され、興味を持ち遊びが広がっていく様子があった。得意な子が、文字を覚えたての友だちと遊べるルールを考え出し、一緒に遊ぶ姿がある。

「〇〇君はたくさん覚えているんだ」と話していた子どもも、1年たつと「9個も覚えたよ」と得意げに披露するようになった。遊びのルールは子ども同士で伝えあう、または家庭での遊びが保育参加で保護者と子どもが遊ぶ姿を見て、深まっていく姿があった。百人一首と将棋をきっかけに、保護者が保育参加を希望することが増えた。また、兄弟児も保育士体験で参加することもあった。

将棋では、集いながら遊ぶ様子が多く、基本的に子ども同士で伝えあい、ルールが広がっていった。担任との仲を深めにくかった子も、将棋を誘うことで関係が深まっていった。

知識は、本などからどんどん吸収し、かるた会の方が見せてくれた「光琳かるた」は絵を見ただけで反射的かのように、短歌をあてる姿もあった。ごっこ遊びも、歌人が登場するなど生活全般に百人一首と将棋が密着していたように感じた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

百人一首や将棋を通してたくさんの人と関わることができ、たくさんのことを学ぶことができた。人見知りだった子ども、大好きな百人一首があれば仲良くなれ、活動に消極的だった子ども、大好きな将棋で自信がついて意欲的に参加できるようになったりと成長を感じる瞬間がたくさんあった。覚えるほどに、クラスに置いていた本を読みこみ、その中から「頭金、腹金、尻金」などの読み方を覚え、伝えあうことでお互いに強くなっていった。覚えてたの頃はルールがわかり、面白くなるが、強い人との対戦で、負けることがいやになる時期、負けた悔しくて大泣きする姿もあったが、上達するにつれて挑戦する気持ちが見えてきた。悔しい時期は相手に対して悔し紛れな言葉が出ることも多々あったが、棋士の指導などにより、あいさつや礼儀を習うことで、変わっていく姿があった。また、専門の方にお越しいただく事で、知ることで遊びが変化し、再燃していく様子があった。散歩から戻れば、少しでも時間を見つけ、百人一首や将棋に飛びつく姿、散歩中も短歌を唱える姿を見ていると、本当に好きなんだということが伝わってきた。Youtube やゲームを楽しむ姿が多かった子どもたちも、家族とかるたや将棋をする時間も増え、対話も増えたように思う。習い事として始めようとしているご家庭もあり、どのような形でもこの遊びの体験は子どもたちの今後の人生を豊かにする一助になるのではないかと感じている。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズいけがみ保育園
施設所在地	東京都大田区池上6-27-25
法人名	株式会社クオリス

1. 活動のテーマ

<テーマ>

活動のテーマは「数字と図形」。これまでの保育では、遊びの中での基礎的な知識に親しむことが一般的であり、思考力の育成が不足しているという課題があったと考えている。また、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿にも「思考力」があるように、幼児教育では将来自ら考えて行動するための基礎となる思考力を育む機会を提供することも重要だと考える。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
時代なのか小学校受験を検討している家庭が数割いたり、公文式やそろばんなど、算数系の塾に通っている園児が多く在籍している。それら園児は、トランプやレゴなど数字や図形に興味関心が高く、優しい問題ではすぐに飽きてしまい、難しい取り組みにチャレンジしたいという欲求が強い。

2. 活動スケジュール

思考力とは、経験や知識をもとにあれこれと頭を働かせられる人（筋道立てて考える力が高い人）のこと。そのような人物になるには継続的に取り組むことが重要だと考え、毎週1回実施することをスケジュールに組み込んだ。1回の実施時間は約45分。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
「覚える」ことより「考える」ことを中心とした思考学習ができる環境を整えるため、図形プレート、ひもとおし、ブロックなどの道具や、視覚的アプローチもできるように映像も用意。遊びながら粘り強く考える環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・クラスごとに同じ映像を15分視聴：算数的思考力の土台となる量感と空間認識を視覚的なアプローチを通じて、数や図形の概念を遊びながら理解をしていく。
- ・個々にテキストを30分実施：個々に理解力、興味関心の度合いなどは異なるので、テキストは自分のペースで取り組めるように設定。各々が楽しめるよう、少しずつ取り組む難易度を高めながら実施していく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

適宜活動を撮影。その写真・映像を保育士同士で見ながら、子どもたちがそれぞれに何に関心を持ち、どのようなアイデアを持っていたかを共有し合う。実施したテキストはお迎え時に随時保護者に共有し、子どもの成長を共に確認し合う。また、活動の見学会も時折実施し、保護者に生の様子を観てもらおうことにしている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・1回45分というのは園児には少し長い時間であるが、継続的に取り組むことで、座った状態で集中して取り組むことに慣れるという副次的効果も得られた。
- ・外部から講師を招くのではなく、子供たちの普段の様子を良く知る担任が実施することにより、一人ひとりに合った活動となっている。
- ・幼児教育がしっかりしている保育園であると、ママ友ネットワークで広がっていることを保護者から伺った。
- ・この取り組みにより、職員が幼児教育に関心を持つようになったことが大きな発